

## 避難訓練 評価報告書

作成日：2017年12月19日  
作成者：学校法人木の実学園  
木の実幼稚園  
理事長 中矢謙一郎

### <個別事案と今後について>

- 避難時の隊列の組み方は、安定した速度で歩く上で年長（5歳児）と年少（3歳児）がペアになることが大変有効であり、この隊列を定型として維持しています。
- 一昨年度の教職員反省会で出されたアイデアである「隊列を大きな4つのグループに分割して避難する」ことを今年度も継続しました。以前は長い隊列の途中で繰り返り発生していた小さな遅れの蓄積により、隊列の後方では早歩きか、時には駆け足のように進まなければ隊列を維持できなかったことへの反省から出たものでした。小さな遅れの蓄積を解消し、安定した速度で安全に歩行する点に改善が見られ、それが安定したタイムで避難行動をとれている要因であると認識しています。
- 隊列の位置や学年により怪我がどの程度発生するか実態把握をする為、前回の訓練から転倒して怪我をした園児数をカウントすることを始めました。結果としては、隊列を4グループに分けたことで歩行速度が安定し（前のクラスに追いつくための小走り等が減った）、そのため怪我の発生が著しく減少した。

(昨年度)	参加園児 292名	怪我の発生件数 32件	怪我の発生率 10.9%
(今年度)	参加園児 336名	怪我の発生件数 14件	怪我の発生率 4.2%

- 今年も中学生に手を握って頂きながら年少児を校舎4階へ引率頂いたおかげで、高いところへ避難する体験ができました。やはり、この行為そのものが「避難行動」の体感の第一歩目であり、幼子にとっては貴重な体験・経験になったと強く感じました。これからも是非継続頂けると幸いです。

南海トラフ大地震の際に発生する津波により、瀬戸内の松山地方に第一波が到達（1mの水位上昇）が始まるまでに2時間強の時間があるとされています。東日本大震災の際に大変短い時間で津波が到達した地区地域であっても、命を落とした人がゼロの場所もありました。この事実を踏まえ、訓練の結果に満足せず、学校全体の習慣および約束事として「いざという時の行動」を明確にすべく、今後も訓練・評価・改善を継続していきたいと考えております。今年度も、大変お世話になりました。

### <総評>

今年で6回目となるこの度の避難訓練も、避難先である垣生中学校はもとより、垣生地区の自主防災会連合会や交通安全協議会、垣生駐在所より御理解と御協力を賜れたおかげで執り行えたものであり、地域の方々へ深く感謝申し上げます。

今年度も垣生中学校の先生方と中学2年生の皆さんのご協力により、中学2年生が年少児と年中児を校舎4階の多目的スペースまで避難させるという合同避難訓練の形を取れ、子どもたちにとって「津波から身を守る」とはどのような行動なのかを体感する大変貴重な機会となりました。

避難訓練は、上述の各会の方々から避難ルートの要所に立って頂いたおかげで、今年も大きな事故なく全参加園児が無事に垣生中学校へ到着致しました。また、避難にかかる時間は例年の平均時間とほぼ同じ結果となり、おおよそ避難行動にどのくらいの時間を要するか把握できてきたと認識します。これまでの改善点を右に記すと共に、今後も訓練を継続する中で小さな改善点を見つけて、子どもたちの防災教育に努めてまいります。

### <記録：避難開始から垣生中学校到達までに要した時間>

平成24年度： 先頭の到着 ⇒ 41分 最後尾の到着 ⇒ 50分（9分差で到着）  
平成25年度： 先頭の到着 ⇒ 21分 最後尾の到着 ⇒ 26分（5分差で到着）  
平成26年度： 先頭の到着 ⇒ 24分 最後尾の到着 ⇒ 28分（4分差で到着）  
平成27年度： 先頭の到着 ⇒ 24分 最後尾の到着 ⇒ 30分（6分差で到着）  
平成28年度： 先頭の到着 ⇒ 19分 最後尾の到着 ⇒ 23分（4分差で到着）  
平成29年度： 先頭の到着 ⇒ 21分 最後尾の到着 ⇒ 26分（5分差で到着）

避難開始から先頭到着までの平均時間	⇒ 22分	* 実施初年度を除く
避難開始から最後尾到着までの平均時間	⇒ 27分	* 実施初年度を除く

(以上)